

## ～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 慢性腎臓病患者におけるBUN/Cr比と腎予後との比較検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大森病院

研究責任者 腎センター 科 職位・氏名 助教 荒井 太一

### 【研究の目的】

慢性腎臓病の治療における正しい蛋白摂取制限は、過去の研究で、腎機能低下の進展抑制と尿毒症発症の予防が得られることが明らかにされています。食事療法の達成の有無は、蓄尿検査を用い、推定塩分摂取量と蛋白摂取量を調べることで確認できます。しかし、蓄尿検査では、エネルギー摂取量を評価することができないため、食事量全体の低下が起こっていることに気が付くことができません。一方、血清尿素窒素/クレアチニン比(BUN/Cr比)は蛋白過剰摂取およびエネルギー摂取不足で上昇することが知られています。

東邦大学医療センター大森病院 腎センター科では、今まで外来で診療された患者様方々の食事療法の腎臓病重症化予防効果を再評価するため、蓄尿検査と血清 BUN /Cr 比を用いて、より簡便な食事療法達成状況の確認および腎予後の関係を検討するため、この研究を計画しました。

### 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者:2005年1月1日～2020年1月31日までに東邦大学医療センター大森病院腎センター科において、定期通院し、栄養指導を受講され、かつ、24時間蓄尿検査を継続している 20歳以上の慢性腎臓病の方を対象に既存データを用いた研究を行います。

方 法: 診療録から抽出した情報、検査データを解析することにより、蓄尿検査と血液検査における BUN/Cr 比が食事療法の腎臓病重症化予防効果を評価しうる指標として有用であるか検討いたします。

### 【研究組織】

代表施設名: 腎臓学講座 研究代表医師: 酒井 謙 役職: 教授

### 【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

### 【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター 大森病院 腎センター科

職位・氏名 助教・荒井 太一

内線 6757